

タイトル	「ヒト大腸癌の再発・転移におけるClaudin-1の機能解析と治療戦略」
名前・役職	衣笠 哲史
講座・部門	外科学講座
研究領域	癌(大腸)
重点研究分野への該当	メカニズム解明 ・ バイオマーカー
キーワード	大腸癌 ・ 転移 ・ 再発 ・ Claudin-1
対象疾患	大腸癌
研究概要 (背景・目的・特徴)	<p>(研究背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸癌術後の転移、局所再発を早期に把握・治療出来れば生存率改善ができる。</li> <li>・大腸癌組織では細胞間接着Tight Junction(TJ)特異的の蛋白質であるClaudin(CL)-1の発現が顕著であり、大腸癌の深達度に関連性がある。</li> <li>・CL-1と大腸癌術後の転移、局所再発との関連性やCL-1の機能的な役割等解明されていない。</li> </ul> <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CL-1と大腸癌術後の転移や局所再発などの関連性を解明する。</li> <li>・CL-1が強発現した大腸癌細胞が機能的にどのような変化をきたすか解明する。</li> </ul>
期待される効果	・大腸癌術後の生存率改善 ・新たな腫瘍マーカー開発
概略図	
最新の報告 (科研費報告書より)	<p>Claudin(以下CL)-1の発現と大腸癌術後の再発や転移との関連性や、潰瘍性大腸炎(以下UC)に合併した大腸癌における関与について手術標本を用いて検討した。Stage II and III直腸癌手術症例306例の検討ではCL-1の発現低下はStage II and III直腸癌の再発や予後不良因子となりえると考えられた。同様に、癌合併したUC症例の切除標本を用いて検討したところ、明らかにその発現は増強しびまん性に発現していた。CL-1はUCの病態や発癌に関与している可能性が示唆された。 <a href="http://kaken.nii.ac.jp/d/p/21591740.ja.html">http://kaken.nii.ac.jp/d/p/21591740.ja.html</a></p>
関連特許	無
共同研究先	無
技術段階	研究段階      実用化段階
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Claudin-1 protein is a major factor involved in the tumorigenesis of colorectal cancer. Anticancer Res. 2009 Mar;29(3):851-7.</li> <li>・Selective up-regulation of claudin-1 and claudin-2 in colorectal cancer. Anticancer Res. 2007 Nov-Dec;27(6A):3729-34.</li> </ul>